清風高等学校
清風中学校
校長　平岡　宏一

令和　4　年度　学校評価

めざす学校像・教育目標

建学の精神

徳・健・財、三拍子そろった姿でルールを守り、世の中のために尽くす人間となるために勤勉努力する理想的な人物を育成する。

教育目標

清風魂を体得させ、福の神すなはち社会の全てから安心と尊敬と信頼される人物を育成する。

清風魂とは、社会の全てから安心と尊敬と信頼される人物になるという目標を、実行させる精神力であり、実現させる魂である。

教育方針

勤勉と責任とを重んじ、自立的精神を養うとともに、明朗にして誠実、常に希望の中に幸福を見出し、社会の全てから安心と尊敬と信頼の対象となり、信用されうる人物を育成するため、仏教を中心とした宗教による教育を実施する。

清風魂を体得するために

第一　　正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。

第二　　先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神を身につけること。

第三　　常に節制を守り、体力の練磨向上を計り、徹底した精進努力をすること。

第四　　礼節を重んじ、父母を大切にし、先祖に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。

第五　　素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。

第六　　常に自利利他・福の神コースを脱線せぬよう心がけ、急がず、息まずの心構えで勤勉努力を続けること。

本年度の重点取組目標

１．　建学の精神に基づく、理想的な学校づくりへの取り組み
２．　教育内容の充実と改善
３．　基本的生活習慣の確立と学力の向上
４．　教員の資質向上による教育活動の充実

※上記目標についての評価指標で、Ａ：よくできている　Ｂ：できている　Ｃ：あまりできていない　Ｄ：全くできていない
の４段階で評価を実施し、Ａ評価＋Ｂ評価の割合が全体の８割を上回ることをめざします。

本年度の取組内容及び自己評価

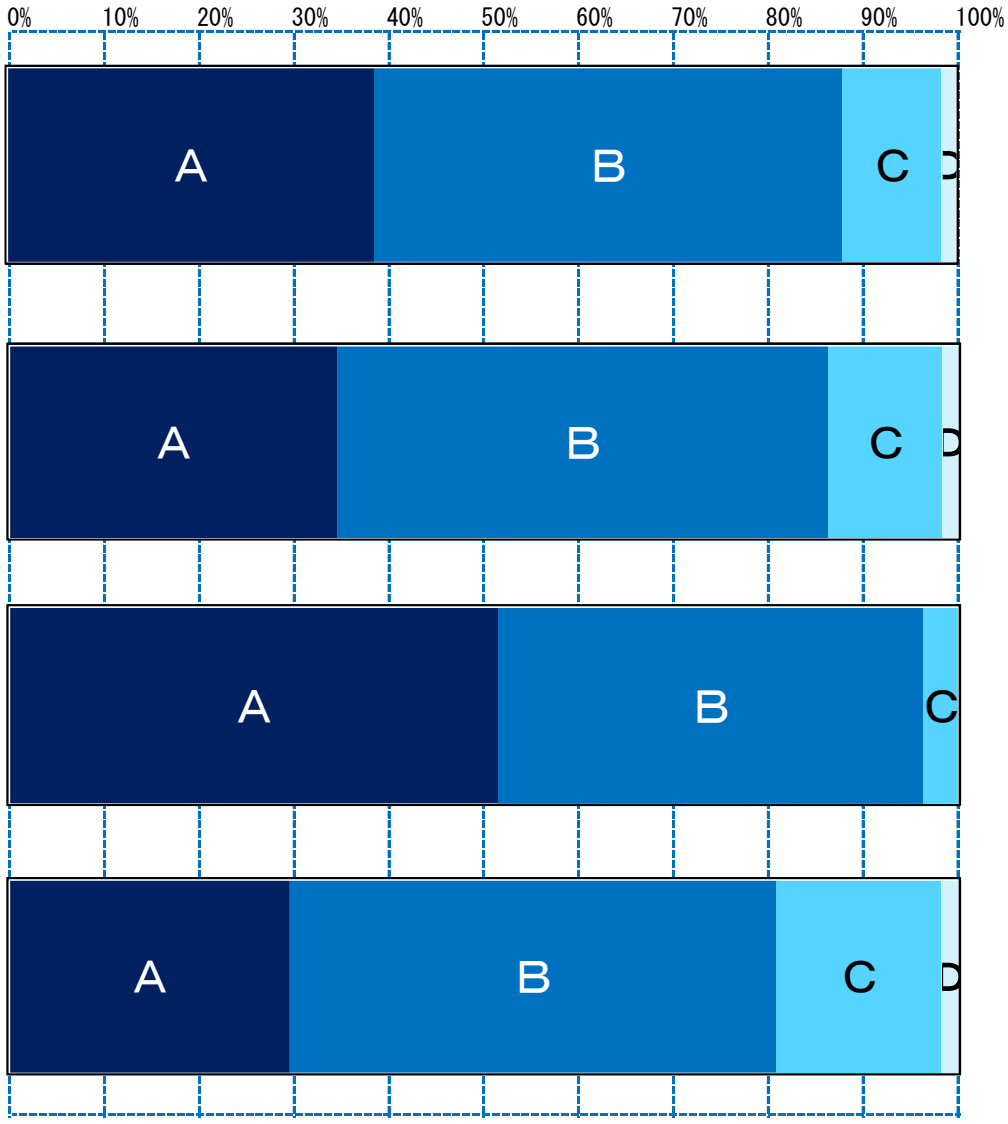
（注）「前年度比」欄は、A＋Bの比率が3%以上上昇した場合は「↗」、同比率が3%以上低下した場合は「↘」、それ以外の場合は「→」を表示

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 A:よくできている　B:できている C:あまりできていない　D:全くできていない				前年度比
			A	B	C	D	
1 建学の精神に基づく理想的な学校づくりへの取り組み	様々な機会を通じて、学校関係者への建学の精神浸透を図る	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者に浸透し、かつ支持を得られている	54.9%	43.1%	2.0%	0.0%	↗
		在校生、卒業生は学校に誇りを持っている	39.5%	59.2%	1.3%	0.0%	→
	透明性の高いかつ効率的な経営を志向し、学校関係者のみならず、社会に対しても適切な情報開示を行う	学校の経営指標と財務状況について理解している	28.3%	55.3%	15.8%	0.7%	↘
		生徒募集と財務の関係や、生徒募集が財務に及ぼす影響について正しく理解している	48.0%	45.4%	4.6%	2.0%	↗
		節水・節電など、適切な範囲において無駄な経費の節減に努める意識付けができている	32.9%	44.7%	19.7%	2.6%	↘
		学校ホームページで、可能な範囲の情報公開をしている	34.9%	55.3%	9.9%	0.0%	↗
		地域や地域住民との交流ができている	14.7%	48.0%	33.3%	4.0%	↘
		地域や地域住民に対して、何らかの社会貢献が果たせている	17.3%	53.3%	28.0%	1.3%	↘
	常に、施設の維持・改善に努め、かつ教職員の適切な役割分担により、安全・快適な学習環境の提供を図る	校務分掌や責任体制が明確になっており、円滑な校務が実施できている	39.5%	54.6%	5.9%	0.0%	↗
		教職員の職務内容や勤務状況などについて、責任者が適切に管理監督を行っている	44.4%	49.0%	5.9%	0.7%	→
		施設設備に関して、安全・維持管理を目的とした点検等が、定期的に行われている	51.0%	47.1%	1.3%	0.7%	↗
		事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている	51.0%	43.1%	5.9%	0.0%	→
		危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている	48.4%	48.4%	3.3%	0.0%	→
		学習・生活環境の充実に向けて、可能な範囲で施設設備の改善に取り組んでいる	40.4%	53.6%	5.3%	0.7%	→
			39.0%	50.0%	10.1%	0.9%	↘

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 A:よくできている　B:できている C:あまりできていない　D:全くできていない				前年度比
			A	B	C	D	
2　教育内容の充実と改善	教職員相互の連携を強化し、学習指導要領＋独自性の教育を実践する	教育課程は、学習指導要領に沿っている	46.1%	52.0%	1.3%	0.7%	↗
		年間を通じた適正な教育計画を、各教科別に立てている	55.9%	42.8%	0.7%	0.7%	→
		教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている	46.1%	50.0%	2.6%	1.3%	→
		教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解や連携はとれている	29.6%	46.7%	21.7%	2.0%	↘
		教職員会議をはじめ各種会議が、有効かつ効率的に機能している	32.0%	55.6%	11.1%	1.3%	↗
	情報が氾濫する時代において、生徒に対しさまざまな機会を捉えて、情報リテラシーの向上と人権尊重精神の涵養に努める	生徒の情報活用能力の育成を図っている	28.9%	55.5%	14.1%	1.6%	↘
		情報の発信に伴う責任など、情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる	34.6%	55.1%	9.4%	0.8%	↗
		人権尊重に関する様々な課題や指導方法を、教員が研究する仕組みや体制がある	32.8%	56.3%	10.9%	0.0%	→
		人権尊重の教育において、様々な学習方法で意識を高める教育を行っている	39.8%	53.9%	6.3%	0.0%	↗
	良識ある社会人となる為の基盤づくりを促進する教育活動を実践する	時事問題や社会情勢などについて、正しく理解させるための教育活動を取り入れている	27.6%	60.6%	11.0%	0.8%	→
		他国の歴史・文化の理解、異文化交流など、国際理解に対する教育活動を取り入れている	32.8%	54.7%	11.7%	0.8%	↗
		ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を実施している	31.3%	55.5%	12.5%	0.8%	→
		生徒に清掃、校内美化に取り組ませている 施設・設備を大切にする心を育成している	42.2%	52.3%	4.7%	0.8%	↗
		健康教育及び健康管理・健康保持増進に関する指導などを実施している	33.6%	57.8%	8.6%	0.0%	↘
		生徒や保護者に対して、食育に関する指導を実施している	23.4%	50.8%	21.1%	4.7%	↘
		生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している	22.7%	57.8%	17.2%	2.3%	↗
	生徒の興味・意欲を大切にし、多彩な行事・活動を通じて、生徒の主体性を育む教育を実践する	図書館の利用推進など、読書指導に取り組んでいる	28.3%	62.2%	7.9%	1.6%	↗
		部活動は活発に行われており、学校としての支援も適切である	60.9%	38.3%	0.8%	0.0%	↗
		ボランティア活動も活発に行われている	15.6%	48.4%	34.4%	1.6%	↘
		体育祭、文化祭などの学校行事は活発である	60.2%	37.5%	2.3%	0.0%	↗
		スポーツ活動、芸術文化活動などを、計画的に教育活動に取り入れている	54.7%	44.5%	0.8%	0.0%	→
		卒業生と同窓会との連絡・調整を円滑に進める仕組みと体制がある	28.3%	52.8%	18.1%	0.8%	↘
		中学校と高校との間において、円滑な連携や協力ができる仕組みや体制が整備されている	28.9%	50.0%	19.5%	1.6%	↘
			34.8%	52.4%	11.7%	1.0%	→

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:全くできていない				前年度比
			A	B	C	D	
3 基本的生活習慣の確立と学力の向上	徹底した生活指導を通じて、生徒に社会生活におけるマナーやモラルを身につけさせる教育を実践すると同時に、個々の生徒の志望や抱える問題にキメ細かく対応しうる体制を整備する	生徒指導は学校の方針に基づいて、適切に行われている	64.8%	34.4%	0.8%	0.0%	↗
		生徒の生活指導に対して、学校全体で組織的に対応する仕組みと体制ができている	68.0%	31.3%	0.8%	0.0%	→
		生徒に対して校則遵守や規範意識向上など、基本的生活習慣を身につけさせている	56.7%	42.5%	0.8%	0.0%	→
		生徒指導において、問題の発生を未然に防止するための早期指導に取り組んでいる	53.9%	44.5%	1.6%	0.0%	→
		生徒指導において、家庭との連携が確立されている	58.9%	41.1%	0.0%	0.0%	↗
		コースの目的や特色に基づいた、適切な学習指導が実現できている	48.8%	46.5%	4.7%	0.0%	↘
		学習指導において、生徒の実態や要望に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている	46.9%	50.0%	3.1%	0.0%	→
		カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができている	27.3%	57.8%	14.8%	0.0%	↘
		生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援ができている	42.2%	53.9%	3.9%	0.0%	→
		生徒に対して、志望する進路の実現に向けた学力の向上や有効な情報提供を実施している	50.0%	48.4%	1.6%	0.0%	→
			51.8%	45.0%	3.2%	0.0%	→
4 教員の資質向上による教育活動の充実	教職員の自己研鑽を促す一方、職掌・教科における連携を通じて、相互研鑽をも促す体制を整備する	学校全体において、教職員研修が重要であるという認識が共有されている	34.6%	50.4%	14.2%	0.8%	↘
		効果的な校内研修を企画・立案して、教職員に実施している	28.1%	53.9%	18.0%	0.0%	↘
		教職員が計画的に校外研修を受ける仕組みや体制が整備されている	25.2%	45.7%	27.6%	1.6%	↘
		研修、研究に参加した成果を、他の教職員に伝えて、知識や情報を共有する体制がある	19.7%	48.0%	29.9%	2.4%	↘
		更なる向上を目指して、教職員に対して自己研鑽に努めるよう促している	33.6%	52.0%	13.6%	0.8%	↗
		教員間で授業内容を評価したり、建設的な意見交換などを行う機会がある	34.6%	52.8%	12.6%	0.0%	→
		初任者等、経験の少ない教職員を、学校全体でサポートし育成する仕組みや体制がある	27.6%	53.5%	15.7%	3.1%	→
		教職員の適性・能力・健康状態等を把握し、各人に応じた指導助言ができている	28.9%	55.5%	14.8%	0.8%	↗
		教職員の適性・能力・健康状態等を把握し、各人に適した職務分担や配置ができている	28.3%	55.9%	14.2%	1.6%	↘
		教職員において、積極的に必要な知識や技術を取得しようとする風土が確立されている	35.9%	53.1%	10.9%	0.0%	→
			29.7%	52.1%	17.2%	1.1%	↘

評価結果



評価項目１
建学の精神に基づく理想的な学校づくりへの取り組み

Ａ「よくできている」とＢ「できている」合計の比率は89.0%、8割を超えており概ね良好と考えられるが、前年度比では－1.4%と僅かではあるが低下。

評価項目２
教育内容の充実と改善

Ａ「よくできている」とＢ「できている」合計の比率は87.2%、8割を超えており概ね良好と考えられる。前年度比は+0.2%と横ばい。

評価項目３
基本的生活習慣の確立と学力の向上

Ａ「よくできている」とＢ「できている」合計の比率は96.8%、9割を超えており良好と考えられる。前年度比では－1.2%とやや低下。

評価項目４
教員の資質向上による教育活動の充実

Ａ「よくできている」とＢ「できている」合計の比率は81.8%と8割を超えており概ね良好と考えられる。前年度比は－1.0%とやや低下。

取り組み事例とその成果など

評価項目１　財務状況などについては、毎期ホームページに掲載するほか、教職員向けに決算状況説明会も開催しており、教職員の財務状況などに対する理解の促進と、学園経営の透明性向上に努めています。

評価項目２　7年前に、スーパーコンピューター「京」の開発に携わった井上愛一郎氏を招聘し、ＩＴ教育の充実を図っています。
また5年前には、三重大学教授であった弓場徹氏を「YUBAメソッド研究・研修センター」所長として迎え入れ、「YUBAメソッド」（＝実践的発生技法）の活用を模索しています。
さらに、4年前には、産経新聞編集企画室企画担当部長などを歴任された藤浦淳氏を招聘し、国語教育やＮＩＥ活動の充実にも取り組んでいます。

評価項目３　本項目については、毎回良好な評価結果を得ており、本学園の特色（強み）であるとの認識のもと、従来通りの取り組みを強化していきます。

評価項目４　研修担当主事を配置し、若手教職員の指導・育成強化やノウハウの共有化を図ったり、「自己啓発のための研修等奨励制度」の利用促進により、教職員の一層のスキルアップを図っています。

学校関係者評価

新型コロナウィルス感染症にかかる規制や制約は、本年5月8日をもって感染症分類を2類から5類に引き下げることで、事実上解除されました。しかし、多感な思春期のほぼ全ての期間に、ハンディキャップを背負わされたような学生生活を余儀なくされた学生が大半であったことを考えると、この間少しでも実のある学園生活が出来るように、学校運営に心を砕き尽力された教職員の皆様には、本当に頭が下がる思いです。心からの感謝と御礼を申し上げたいと思います。
今回、地域社会への貢献や交流で低い評価が見られますが、これは上述の事情を考えれば致し方ないことです。ただ少し気になるとすれば、職員同志の知識や情報の共有が少し弱いという点ですが、全体としてはよく健闘されていて、概ね良好な結果だと存じます。
暗いトンネルを抜けて明るい日常が戻った現在、いま一度「世のため人の為に勤勉努力する理想的人物を育成する」という建学の精神に立ち返り、教職員一同心を一つにして学校運営に取り組んでいただきたいと願います。僭越ながら、本校教職員の皆様には、一層のご精進をお願い申し上げます。

今年度の重点目標４項目の全てで「できている」以上の評価が８割を超えていますので、良好な教育活動が行われているといえます。
コロナ禍の影響で、地域交流などは難しい年度でありました。数項目においてあまりできていない評価になっていますが、それぞれ具体的な改善策がたてられており、来年度の向上へ繋げていけます。
今後も、学校の強味を伸ばしつつ課題を克服して、更に充実した活動に結び付けられるように期待します。

今年度も、貴学園におかれましては、教育の充実、学力の向上のため、日々ご努力賜り御礼申し上げます。学校評価につきまして、全体として概ね良好な状況とのこと、引き続きよろしくお願いいたします。
「よくできている」「できている」合計の比率が８割を下回った項目について、節電等につきましては世の中の厳しい状況下で大変ご苦労なさっていることと存じます。地域との交流、ボランティア活動、教職員の研修等は、新型コロナが５類に移行したことで、状況が改善していくことと期待しております。
令和４年度は、貴学園の校則についてメディアで取り上げられることがございましたが、揺るぎない信念で毅然としてご対応くださったこと、さすがでございました。
世の中の変化に伴い、変えざるを得ないことは、これから出てくることがあるかもしれませんが、清風の教育方針を信じる者として、これからも厚く応援・支持させていただきたく、今後とも貴学園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

評価結果の検証と次年度目標への反映

全体としては、Ａ「よくできている」Ｂ「できている」をあわせた比率が８割を超えており、概ね良好な評価結果であります。
ただし、以下の評価項目については、Ａ、Ｂをあわせた比率が８割を下回っていますので、今後さらに改善に向けて取り組んでまいります。

評　価　指　標	A+B比率	具体的改善策
節水・節電など、適切な範囲において無駄な経費の節減に努める意識付けができている	77.6%	毎年9月に、財務状況についての教職員向け説明会を開催しており、経常収支改善のために更なる経費削減意識の向上を図ります。
生徒や保護者に対して、食育に関する指導を実施している	74.2%	従来の講演会・セミナー形式に代わる啓蒙活動手法を模索していきます。
地域や地域住民との交流ができている。	62.7%	コロナ禍の影響が続いており、コロナ禍前の状況に戻るのは難しい状況ですが、状況を慎重に見極めながら、活動再開の余地を模索していきます。
地域や地域住民に対して、何らかの社会貢献が果たせている	70.7%	
ボランティア活動も活発に行われている	64.1%	
教職員が計画的に校外研修を受ける仕組みや体制が整備されている	70.9%	研修担当主事を配置し、新任教職員を対象とした春季・秋季研修の実施、内部研修外部研修受講奨励制度創設など、若手教職員の指導・育成強化やノウハウの共有化を図っていますが、教職員間の認知度にバラつきがありますので、更に取り組みを強化します。
研修、研究に参加した成果を、他の教職員に伝えて、知識や情報を共有する体制がある	67.7%	
教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解や連携はとれている	76.3%	各種の連絡会議など、連携を深める仕組みは整っており、また中高連続した「六か年コース」を経験した教員が多数を占めていますので、中学校と高校との連携も十分に図れていますが、左記比率は「まだまだ十分ではない」という評価の表れですので、なお一層の連携強化を進めていきます。
中学校と高校との間において、円滑な連携や協力ができる仕組みや体制が整備されている	78.9%	